

生徒指導だより

第1号

西日本を中心に降り続いた大雨は、多数の県で土砂災害、河川の氾濫、浸水、洪水などの被害をもたらし、行方不明者や死者も確認されております。万が一の災害に備え、本校では、児童生徒の命を守るために、火災や地震を想定した避難訓練、災害時に安全に保護者へ引き渡す訓練、災害について考える防災安全教室などを実施しています。今回は、その取り組みについて紹介します。

災害時保護者引き渡し訓練

6月9日（金）、学校での授業継続が難しい大災害等が発生した際に、児童生徒を安全かつ確実に保護者へ引き渡すための引き渡し訓練が行われました。近年、国内のみならず世界規模で地震や洪水などの自然災害が発生しており、どこで大規模災害が起きるかわからない現状にあります。ご参加、ご協力していただいた保護者の皆様ありがとうございました。今回の訓練を通して緊急時に対する意識を高め、職員の体制を確認することができました。学校と保護者の皆様と連携して災害に備えていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いします。



水害・土砂災害防災安全教室

6月26日（月）小学部22組～24組、中学部3組～9組、高等部4組～9組を対象に、水害・土砂災害防災安全教室が体育館で行われました。

「水害・土砂災害とは何か、学校で水害、土砂災害が起きた場合にどのように避難したらよいかを知る」という目的で、今年度初めて実施しました。

実際に他県で起きたニュース映像を見ると、衝撃映像にみなさんショックを受けていました。怖い災害ではありますが、予測できる災害でもあるため、落ち着いて行動すればよいことを学びました。

体育館で、写真を見たり、教師の話の聞いたりした他、学級毎に実際に避難場所を確認したり、水害・土砂災害確認テストを解いたりしたことで、学習を深めていました。テストで100点を取った生徒がたくさんいました。みなさん、真剣に学習に取り組むことができました。

ハザードマップを確認すると、学校付近は、水害・土砂災害の危険レベルが高い地域となっています。万が一災害が起きた場合の命の守り方について、これからも知識を深められるよう、学習機会を作りたいと思います。

